

神社も札所だった江戸時代

—— 大三島・八幡宮・一之宮・石鎚山



愛媛大学法文学部教授
四国遍路・世界の巡礼研究センター長

胡 光
(えべす ひかる)

北条・菊間海岸を歩く

弘化2年(1845)2月22日、筑前国津屋崎村(福岡藩領/福岡県福津市)を出発した豪商・佐治家一行は、3月15日に三津浜(松山市)へ上陸し、第五十二番札所太山寺から遍路を始めます。記された「四国日記」(佐治家文書、福岡県立図書館保管、佐治洋一氏蔵)を読み解きながら、最新の研究成果もふまえて、四国を旅してみます。

日記には、一日ごとに距離・宿泊所・札数・接待数・宿賃・米代・布団代など費用が記録されています。初日は、五里(約20km)を歩き、2札所に奉納し、6接待も受け、朝浪村(浅海原村)の金左衛門宅に泊まります。宿代(木賃)は15文、米66文、布団20文でした。四国遍路の宿泊は、百姓宅の民泊であることが特徴です。「善根宿」という宿の接待は、宿代が無料ですが、米代や布団代は必要です。布団がなくて困ったという記述もあります。遍路が泊まる家は決まっています。案内本・真念『四国辺路道指南』でも紹介されています。金左衛門宅には、佐治家7名のほかに8名が泊まっていた。



北条海岸を歩く愛媛大学生

翌朝、出立すると、隣の本谷村で赤飯の接待を受け、浜辺を歩くと「かわら焼き多し」という菊間の町に出ます。豪商一行だけあり、瓦蔵元嘉右衛門を知っており、立ち寄って昼食をとります。四国では、弘法大師が辺路をした頃から、昼食を「御わけ」と呼ぶと記されます。弘法大師に御分けするという大師信仰がうかがえます。

大三島・大山祇神社も札所

第五十四番札所延命寺(今治市)を経て、第五十五番札所へ奉納します。ここは、「別宮大明神」と呼ばれ、「大三島の前札所」と記されています。八十八ヶ所が全て寺院になるのは、明治維新の神仏分離令の後であり、江戸時代には各国一之宮をはじめとする主要神社が札所に含まれていました。

詳細な遍路日記の草分けである、承応2年(1653)の澄禅「四国辺路日記」も「本式は辺路であれば島へ渡り、別宮に札を納めるのは略式である」と述べます。さらに昨年、実際に大三島へ渡った遍路日記を発見しました。佐治家の日記に近い、文化2年(1805)に京都商人が遍路をした「四国巡拝みちの日記」では、堀江村(松山市)から船に乗り、巖島神社と大山祇神社を参詣しています。大山祇神社では、五十五番の納経(御朱印)が出たとあるので、神社側も札所という認識があったのです。現在は、別宮の世話をしていた隣接する南光坊が札所になっています。

今治城下の室屋町の善根宿・山田屋四



八幡宮参道を登る愛媛大学生

郎右衛門宅に泊まり、翌日城下町を見物した後、第五十六番泰山寺へ向かい、次に第五十七番栄福寺・石清水八幡宮へ到着します。佐治日記では、寺と神社の名前が並列されますが、澄禅日記や真念案内本には八幡宮とのみ紹介される場所です。

現在の遍路道は、八幡宮の山に突き当たると迂回して裏の栄福寺に至りますが、まっすぐ山頂に登ると八幡宮の本殿があり、ここで本尊阿弥陀如来を拝し、麓の栄福寺で大師堂を拝していたのでした。現在の八幡宮参道は、みごとな竹林で覆われています。

石鎚山を拝す

第五十八番仙遊寺、第五十九番国分寺へ奉納し、桜井村（今治市）鍛冶屋嘉兵衛宅で泊まります。翌朝、茶堂で焼米と月代（髪結い）の接待を受け、道中では、楠村の本尊開帳、臼井の水、生木地蔵、福岡八幡宮を参詣しながら歩きます。弘法大師が加持祈祷した時、諸仏来迎して五色の雲がたなびいた水、樟の大木に大師が刻んだ尊像は霊験あらたかであると記されています。

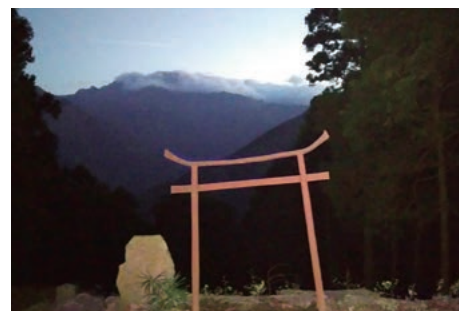
こうして、大戸（大頭・西条市）の町で昼食をとったところ、九時半（13時）だったので、この家に荷物を置いて百丁（約10km）の山道を登ります。七時半（17時）に第六十番横峰寺に到着し、本尊大日如来と大師堂を拝します。右手の宮は石鎚山蔵王権現の前札所になっていて、両所に札を納めます。寺の前で少し休み、急いで下ります。道半ばで日が暮れ、提灯をつけて町に帰ると五ツ（20時）でした。たいへん難儀をしたと記されています。頼んでいた風呂に入って、遅い夕食をとりました。この日、歩いた距離は九里

余（36km以上）に及びました。老婆を含む七人連れの健脚を知ることができます。

現在、横峰寺境内とそこへ至る道は国の史跡に、石鎚山を望む星ヶ森は名勝に指定されています。寺への距離を記した丁石や自然な山道がいにしへの遍路道の様子をよく伝えてくれます。溪谷沿いの道は、自然石の階段も見られ、地域特有の景観を形成しています。

早朝に出立すると、第六十一番香園寺を経て、小松城下を通ります。第六十二番札所は小松駅の裏にある一之宮、現在は宝寿寺が札所になっています。氷見村に入り、第六十三番吉祥寺で休憩をとります。当村には、弘法大師加持祈祷の水があり、大師が来た時、水がなかったため、遠くから水を汲んできた女性がいたので、この地に水を授けたという伝説が記されます。現在の西条市の打ち抜きの始まりです。

石鎚蔵王権現を祀る第六十四番前神寺は、四国一の福寺で、高いところにあると紹介されています。ここは、現在の石鎚神社の地で、明治維新で廃寺となり、後に現在の場所に再興されました。石鎚神社の本殿が本堂、すぐ下にある祖霊殿が大師堂の面影を伝えています。



国名勝 星ヶ森（横峰寺奥の院）

【参考文献】

- 伊予史談会『四国遍路記集』伊予史談会双書,1981
- 塚本明・近藤浩二・胡光「巡礼と『道中日記』の諸相」『2013年度四国遍路と世界の巡礼公開講演会・公開シンポジウムプロシーディングズ』愛媛大学「四国遍路と世界の巡礼」研究会,2014
- 愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター編『四国遍路の世界』ちくま新書,2020
- 胡光「新発見の遍路日記『四国巡拝みちの日記』」『四国遍路と世界の巡礼』6,2021